

NEWS

The Kagawa Museum

vol. 50

香川県立ミュージアム
ニュース
2020 秋号

Contents

特集

特別展「語る武具～ARMOUR&STORIES～」

調査研究ノート vol.35

田中岑とふるさと香川をめぐる

調査研究ノート vol.36

シリーズ文化財(2)

作品・資料の来歴、価値づけの移り変わりを探る
(常設展「伝える・味わう 文字の世界
—収蔵の指定文化財を中心に—」より)

トピック

県立ミュージアムの新型コロナウイルス対策
地域連携 香川県美術展覧会と小林萬吾

コラム

いのくま便り(1)

ミュージアムガイド vol.40

県立ミュージアムの館内環境管理

収蔵品紹介

香川県指定有形文化財 舞楽面(尉・姫)
藤沢章《窓・カマリア》1993年

れきみんだより

播州針の生産地を訪ねて
—兵庫県小野市池田町の釣針製造所「はりよし」—



しゅ ぬり きつつけ こざね こんいとどしに まいどう くそく
朱塗切付小札紺糸威二枚胴具足 江戸時代 個人蔵

かみほうぐんじ
上法軍寺村(現丸亀市)に住み、大庄屋を務める一方、軍役を果たす「罕人」身分でもあった家に伝わった。高松藩の武士ではなく村に伝わった甲冑として注目される。戦国時代から登場した当世具足の形式。兜は雑賀鉢と呼ばれる鉢を用い、柊の葉をかたどった脇立が印象的である。兜の正面に付いているのは高松藩に所属することを示す共通のマークで「合印」という。喉輪や袖、草摺に熊毛を植えているのが特徴となっている。

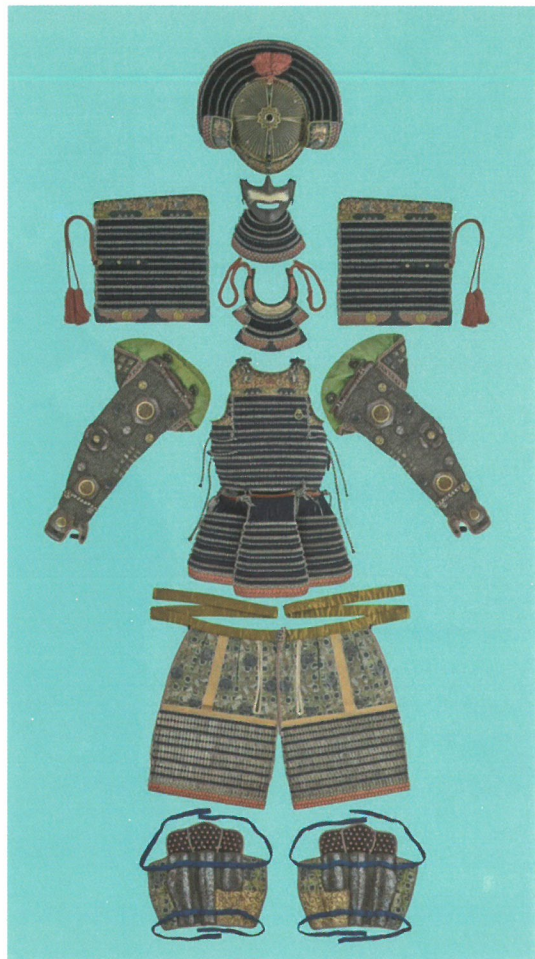
特別展 語る武具 ~ARMOUR&STORIES~

とうけん やり かちゅう
 刀剣、鎧、甲冑、火縄銃、馬具など、江戸時代以前の歴史のあゆみの中で戦いの道具である武具が作られ、使われてきました。長い年月を経て、多くの人々の手に渡る中

で、武具たちにはさまざまな「物語」—由来、伝来、逸話、伝承—が生まれ、武具とともに伝わっています。今回の特別展「語る武具~ARMOUR&STORIES~」では、武具たちの古美術品としての美しさとともに、それらが語る「物語」に注目しながら紹介していきます。

展示の冒頭では、さまざまな武具を紹介します。刀剣や甲冑以外にも戦いの道具は数多くあります。武具の多様なすがたを紹介するとともに、分解したすがたも見ていただけるようにします。通常では見ることが少ない武具のパーツのかたちを楽しんでもらうとともに、独特の部分名称について知ってもらうことができるでしょう。

続いては、武具が生み出され、今に伝わるまでのすがたを、その過程で発生した物語とともにみていきます。それは作り手や持ち主の物語でもあります。時に使用者として、あるいは守り伝える者として、



銀小札紺糸威二枚胴具足(分解) 石清尾八幡宮蔵 当館保管

さまざまな人びとが関わっていくことになります。そこに込められた想いを知ること、武具の魅力に近づいていただきます。

最後に、武具と武士の関係について考えていきます。武具は武士だけのものなのか、武具を持っているのは武士だけなのか、江戸時代に焦点をあてて、その間にアプローチしていきます。

少しなじみにくい武具ですが、「物語」を入口にすることで興味深い世界へお誘いしようというのが本展示の目的です。

この展示では、造形作家の野口哲哉さんに協力いただきます。甲冑を身にまとう人物を題材に、人のあり様や営みを表現している野口さんは、甲冑に対する豊富な知識と深い造詣をお持ちであり、それをアートというかたちで活用しています。野口さんの視点を展示に加えることで、マニアックなだけではなく、より豊かなものを語る武具のすがたに触れていただければと思います。

(主任専門学芸員 御厨 義道)

特別展「語る武具~ARMOUR&STORIES~」関連行事(香川県文化芸術新人賞記念事業)

トーク・イベント(聴講無料・要事前申込)

◎「野口哲哉と『語る武具』」(仮)

日時:10月24日(土)13:30~15:00
 会場:地下1階 講堂
 話者:野口 哲哉氏、御厨 義道(当館主任専門学芸員)

定員:100名
 申込期間:9月25日(金)~
 定員になり次第終了

トーク・イベント(聴講無料・要事前申込)

◎「歴史と物語」

日時:11月14日(土)13:30~15:00
 会場:地下1階 講堂
 話者:野口 哲哉氏、野口 二郎氏、平賀 大介氏

定員:100名
 申込期間:10月14日(金)~
 定員になり次第終了

トーク・イベント、学芸講座の申込方法

電話、はがき、FAX、「かがわ電子自治体システム」(*)を利用したインターネットからできます。はがき、FAXの場合は氏名、電話、行事の名称を明記してください。

申込先:〒760-0030 高松市玉藻町5番5号

香川県立ミュージアム学芸課 TEL.087-822-0247 FAX.087-822-0049

※「かがわ電子自治体システム」を利用する場合

香川県ホームページ「電子申請・施設利用申込」

香川県ホームページ「お役立ち情報」の「かがわ電子自治体システム」から「電子申請・届出サービス」をクリック。

|展|覧|会|情|報|

特別展示室、常設展示室4・5

特別展

「語る武具~ARMOUR&STORIES~」

10月24日(土)~12月6日(日)

開館時間:9:00~17:00

(入館は閉館の30分前まで)

※10月24日、31日、11月7日、14日、21日、22日は19:30まで開館

休館日:月曜日

11月23日(月・祝)は開館、翌24日は休館

観覧料:1,000円、前売・団体:800円

※高校生以下、65歳以上、身体障害者

手帳等をお持ちの方は観覧料無料

※関連行事は、新型コロナウイルスの感染状況によって開催方法の変更や延期・中止などの場合があります。当館HPなどで最新情報をご確認ください。

Notes for Research

調査研究ノートvol.35

たかし

田中岑とふるさと香川をめぐって

画家田中岑(1921~2014)は、第1回安井賞(註1)を受賞したことで知られる、香川出身の郷土の作家です。

田中が大切にしたのはふるさと香川との関わりでした。



図1 田中岑(自画像)1939年 油彩、カンヴァス 当館蔵

田中の戦前・戦中時代

香川県立三豊中学校(現 観音寺第一高等学校)で美術部を創設したように、子どものころから「絵は好きだった」(註2)という田中。白馬会のひとりで香川出身の画家小林萬吾(1868~1947)の画塾「同舟舎」に通いました。1939年、《自画像》(1939) [図1]で第9回独立美術協会展に初入選。同年、東京美術大学(現 東京藝術大学)に入学しますが、画家海老原喜之助にすすめられ、日本大学芸術学科に移りました。そこで教鞭をとっていたのは、海老原はじめ、後に戦後の現代芸術に貢献した詩人で評論家の瀧口修造らでした。美術だけでなく映画など多様なジャンルが学べた校風について、田中は「映画、演劇、文学、写真、放送へと対象にくらいいつく新時代の総合芸術にかけては先駆的だった」(註3)と振り返っています。こうした環境で制作に打ち込み、1942年には初個展(神戸)を開催するに至りました。ところが、同年、召集。1945年、中国で終戦を迎えるまで、軍隊生活が続きました。その当時を振り返った言葉「まず人間が生活しているという場所ではないよ」(註4)からは、暗い戦地の経験がにじみます。戦死した同胞もあり、1946年、復員した田中は、故郷で「無名戦士の霊をまつる会を催し」(註5)たのでした。

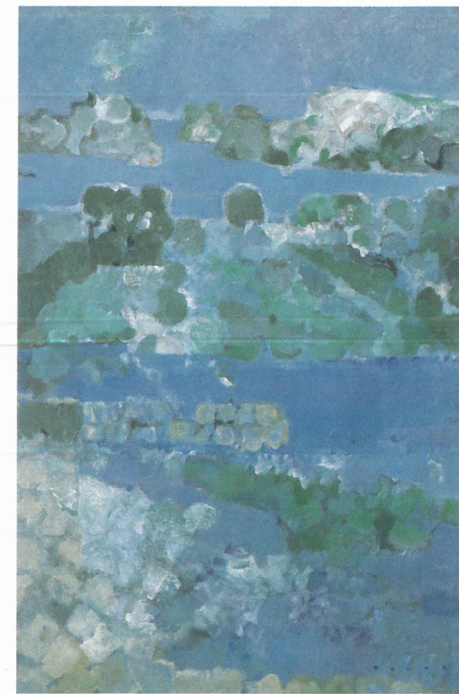


図2 田中岑(瀬戸内)1963年 油彩、カンヴァス 当館蔵

田中とふるさと香川

田中の作品とふるさと香川は密接なむすびつきがあります。戦後、田中は、しばしば自身を育んだふるさとを描きました。《瀬戸内》(1963) [図2]について、長年、田中とその作品を紹介してきた水沢勉は、「画家の育った香川の風土が、その固有性を抽象されることなく、画面に生かされている」(註6)と評しています。

このような田中は、次のような印象的な言葉を残しています。第1に「僕はまず色から入り、キャンバスに絵具をおき、そこにすべての感性を筆圧、筆痕に託すんだ」(註7)。第2に「岡鹿之助が田中君の色は固有色じゃなく、主観の色だといったことがあるけど、よろこびや悲しみを含んだ感情的なものから共通項を探すしかない。僕が育った瀬戸内の流れは、表面おだやかなんだ」(註8)。ふるさと香川、瀬戸内を思い出しながら、自身が感じたふるさとの色を巧みな筆づかいでキャンバスにのせた田中。来年、生誕100年を迎えます。

(学芸員 日置 瑤子)

註1 安井賞とは、画家安井曾太郎(1888-1955)を顕彰し、具象的傾向のある絵画作品をその評価の対象としたもので、1997年まで新人を発掘し育成することに寄与しました。

註2 田中の言葉。「忙中閑談3」『四国新聞』昭和58年、3月18日。

註3 「田中岑VS針生一郎」田中岑 CATALOGUE』1979年。

註4 田中の言葉。「忙中閑談3」『四国新聞』昭和58年、3月18日。

註5 前掲書。

註6 水沢勉「風と光の痛み——田中 岑をめぐって——」『今日の作家たちToday's Artists III-'90』1990年、6頁。

註7 「田中岑VS針生一郎」田中岑 CATALOGUE』1979年。

註8 前掲書。

|関|連|展|覧|会|

常設展示室2

アート・コレクション「田中岑—描き出された記憶」

10月1日(木)~12月20日(日)

学芸講座(聴講無料・要事前申込)

◎「香川ゆかりの作家たち—藤川栄子と田中岑」(仮)

日時:11月8日(日)13:30~15:00

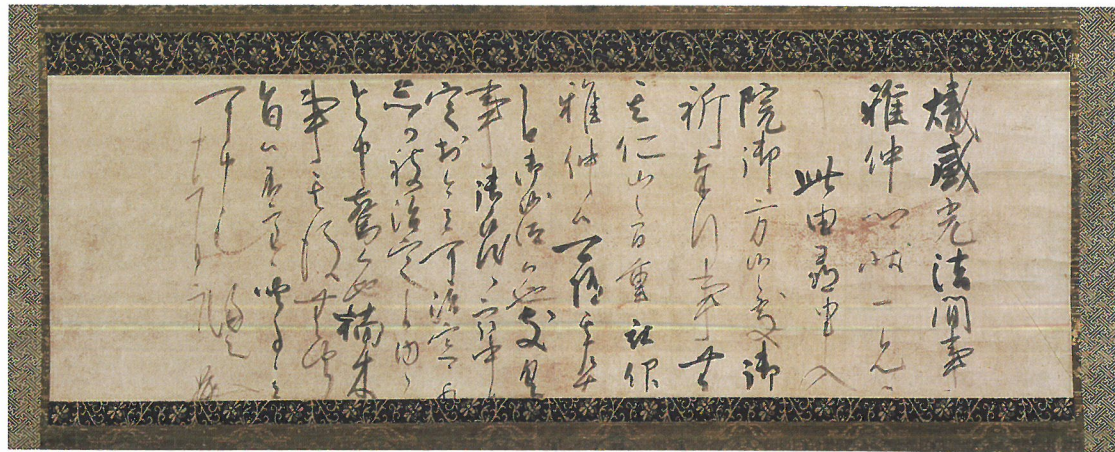
会場:地下1階 研修室

講師:日置 瑤子(当館学芸員)

定員:36名

申込期間:10月8日(木)~、定員になり次第終了

申込方法:2頁の学芸講座の申込方法のとおりです。



国指定重要文化財 花園天皇宸翰御消息 当館蔵

Notes for Research 調査研究ノートvol.36 シリーズ文化財(2)

作品・資料の来歴、価値づけの移り変わりを探る

(常設展「伝える・味わう 文字の世界」
—収蔵の指定文化財を中心に—より)

一つの作品・資料は、現在に至るまで価値づけが変わりながら伝えられていきます。現在、当館が収蔵している指定文化財のうち、「書跡」に分類される資料も、様々な変遷、様々な価値づけを経て現在に至っています。一つの資料を紹介しましょう。

国指定重要文化財 花園天皇宸翰御消息(写真)

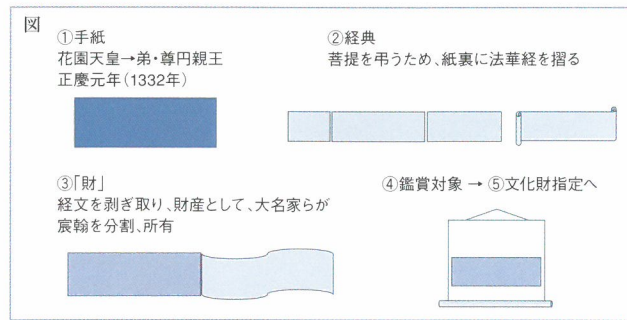
高松松平家に伝わった資料です。花園天皇(1297~1348年)は鎌倉時代後期の天皇。宸翰は天皇の手による書で、消息は手紙のこと。つまり花園天皇が自ら書いた手紙です。

花園天皇の自筆手紙は数多く伝来しており、現在36点確認されています。その伝来過程については、既に先行研究が明らかにしており、それらに依りながらたどってみましょう。

まず、花園天皇の宸翰が多く伝わっているのは何故か、から始めます。手紙は、内容の伝達が終われば用済みのはず。考えるヒントは、国宝に指定されている「三朝宸翰」(前田育徳会蔵)という巻物2巻にあります。この巻物は、花園天皇をはじめ父である伏見天皇や、後醍醐天皇の自筆手紙が貼り継がれているものです。そして裏面に引き剥がされた痕が見えます。どうやら、この「三朝宸翰」の裏面に何か記されていたようです。痕跡から経典(法華経)が摺られていたと考えられています。各天皇の手紙を受け取った人物(花園天皇の弟・尊円親王)が、菩提を弔うために、手紙を貼り継ぎ裏面に法華経が摺られ、経典として伝わることで、花園天皇ほか多くの天皇自筆の手紙が後世に伝わるようになったのです。

当館の所蔵品も一連のものと考えられています。現在、掛軸となっているため紙の裏側の様子は不明ですが、注目すべきは、手紙の下側の文字が切られている箇所です。恐らく経典として紙の高さを整える際に切り落とされたのでしょう。このように8巻分のお経の用紙として使われたため、多くの宸翰が伝わったのです。

では、なぜ経典が剥ぎ取られたのでしょうか。それは、お経としての役割よりも、裏面にある各天皇の自筆が注目されたためです。天皇の自筆=「財」という価値づけのもと、権力者の収集対象となりました。またその筆跡に美しさを見出し、掛軸として鑑賞する(例えば茶席に掛けるなど)ものとしての価値づけがされたのです。こうして天皇の自筆は、戦国時代以降江戸時代にかけて、実権を握った武士、大名たちの手に渡ります。加賀・前田家が収集したものが、「三朝宸翰」となって伝わります。一方、徳川將軍家から水戸徳川家を通じて高松松平家に伝わったと、現在のところ想定されているのが、当館の資料です。



ここまでをまとめると図のようになります。そして、筆跡の美しさや天皇宸翰という価値づけのもと、国の重要文化財に指定されました。つまり、①手紙→②経典→③「財」→④鑑賞対象→⑤文化財といった変遷を経て、現代に伝わっているのです。

一つの資料の伝来過程をたどることは、その資料が持つ歴史的な積み重ねを解き明かし、先人たちがどこに価値を見出して伝えてきたのかを、明らかにする作業です。資料・作品を後世へ伝えていく博物館(ミュージアム)として、その資料・作品のもつ様々な価値をひもとき、明らかにしていく調査活動を、今後も進めてまいります。

(主任専門学芸員 渋谷 啓一)

主要参考文献
 展覧会図録「国宝誕生100年 香川の名宝展」(香川県歴史博物館、2001年)、作品解説は上野進氏
 羽田聡「京都国立博物館所蔵「花園天皇宸翰御消息」について」
 『学叢』第30号・京都国立博物館、2008年5月

「関|連|展|覧|会」
 常設展示室1
 「伝える・味わう 文字の世界」
 —収蔵の指定文化財を中心に—
 10月1日(木)~11月29日(日)

Topic

トピック

県立ミュージアムの新型コロナウイルス対策

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、当館では3月2日よりミュージアムトーク等の館内行事を中止するとともに、施設の利用を体験学習室(3月9日)、図書コーナー、ミュージアムショップ等(3月18日)休止するなどの感染予防対策を講じながら開館を継続しました。そのような中で4月11日より春季特別展「白馬のゆくえ」が開展することになり、体調不良や県外からの方々に利用を控えていただき、マスク着用や咳エチケットの励行など来館者の方々に協力をお願いするとともに、社会的距離確保のサイン表示やこまめな館内消毒などの感染防止策を実施しました。

その後、県内では4月12日から13日の2日間で15名の感染が確認されるなど急速な感染拡大がみられ、4月14日には県独自の「香川県緊急事態宣言」が発令されるなか、4月16日には新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言の対象の区域が全都道府県に拡大され、4月18日には臨時休館となりました。

5月5日に開催された県新型コロナウイルス対策本部会議において4月21日以降で県内の感染者が確認されていないことを踏まえて、適切な感染防止対策を講じた上で順次開館していくことが決定され、当館も5月9日より再開館に漕ぎつきました。

再開館にあたっては、休館前の取り組みに加えて、密接を避けるためのサイン表示を増やし、スタンプやタッチパネルの一時撤去、消毒機会を増加させるなどの感染対策を強化しました。



社会的距離確保のサインと飛沫防止のアルコール板設置(2階受付)

現在も5月15日に発令された「香川県感染警戒宣言」における「感染警戒期」(2020年8月25日現在)であることを十分に踏まえ、体験学習室等の利用休止や研修室、講堂の利用人数制限、一部館内施設の利用制限、接触箇所の消毒等の感染予防対策を継続しています。

(主任文化財専門員 信里 芳紀)

当館の動き	社会の動き
2月25日	県主催の行事の中止、延期の決定
2月27日	全国一律の学校休校要請 香川県新型コロナウイルス対策本部設置
3月2日	3月中の行事の中止延期を発表
3月9日	施設利用休止(体験学習室)
3月10日	「おうちミュージアム」をスタート
3月17日	県内で新型コロナウイルス感染者が確認される
3月18日	施設利用休止(図書コーナー、ミュージアムショップ、ビデオライブラリー、貸施設利用)
3月24日	東京五輪・パラリンピックが延期決定
4月7日	7都府県に「緊急事態宣言」発令
4月10日	来館者へのお願いを掲示周知 4、5月の行事の中止を発表
4月11日	特別展「白馬のゆくえ」開展
4月12日~13日	1日の国内陽性者数が720人を数える 2日間で15名の感染が確認されるなど県内で急速な感染拡大
4月14日	「香川県緊急事態宣言」発令
4月15日	香川県美術展覧会(県展)の中止を決定
4月16日	緊急事態宣言が全国に拡大
4月17日	外出の自粛、大型連休期間の都道府県をまたいだ不要不急の帰省、旅行などの移動自粛
4月18日	臨時休館 国内陽性者が1万人を超える
5月4日	緊急事態宣言が延長される
5月5日	第13回 県対策本部会議で再開館を決定される
5月9日	再開館
5月14日	緊急事態宣言を解除(39県)
5月15日	「香川県感染警戒宣言」発令
5月22日	You Tube公式チャンネルを開設
5月30日	館内施設(ミュージアムショップ、図書コーナー)利用再開

表 当館の動きと社会の動き(2月~5月)(主任文化財専門員 信里 芳紀、専門職員 高木 理光)

地域連携 香川県美術展覧会と小林萬吾

第85回香川県美術展覧会(県展)が中止となりました。戦前、戦中に二度の中止がありましたが、それ以降連続と続いてきた歴史が途切れたのです。つくる人もみる人も、楽しみにしている方が大勢いらっしゃる中、大変残念なことでした。逆に考えると戦争で中止になった時と同じぐらいの未曾有の出来事が今年は起きてしまったのです。ぜひ、来年度には開催できる状況になってほしいものです。

さて、歴史ある県展ですが、特別展「白馬のゆくえ」の主人公、小林萬吾と深いつながりがあります。実は萬吾は県展創設に指導者として携わっていたのです。何人もの県出身の若者が萬吾を訪ね、慕い教わる中、「香川の美術を育てる」という県展の意義を説き、若者の出品へとつなげていったのです。現在の「アート県かがわ」につながる土台をつくったといっても過言ではありません。で

すので、この特別展には県展実行委員会に、協賛という形を取っていただきました。絵画(洋画)部門に依頼し2本の動画ができました。ぜひご覧ください。

(主任専門職員 櫻木 拓)



小林萬吾と香川県美術展覧会

小林萬吾と香川県美術展覧会

香川県美術展覧会関係者が語る小林萬吾像

いのくま便り(1)

画家・猪熊弦一郎に関する調査の現場からお届けする「いのくま便り」。今回は、第二次世界大戦中に疎開した猪熊の様子をレポートします。

猪熊は1944年9月から1946年夏まで、神奈川県吉野村(現・相模原市藤野)に疎開しました。都内から電車で約一時間、ダム建設で新しく出来た相模湖畔の山あいの集落です。この疎開は画家の藤田嗣治からの誘いがきっかけで、他にも佐藤敬、荻須高德、脇田和、中西利雄ら芸術家仲間が徒歩圏内に疎開しました。

こちらは疎開先の農家で描いたスケッチです。生まれて間もない赤ちゃんの表情を見事にとらえています。左下のサインに注目してみましょう。一番上の「midorichan」はこの子の名前です。名付け親は猪熊でした。「6.23」と「05」は年月日を示しており、皇紀2605年、つまり西暦で



©The MIMOCA Foundation

猪熊弦一郎《6.23 みどりちゃん》1945年
インク・紙 25.7×35.9cm 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館蔵

1945年6月23日のスケッチということです。そして猪熊のサインは「guén」とフランス風(ゲン)に書いてあります。戦時中の世相をいかにも反映した皇紀を使う一方で、猪熊にとってフランスは敵国である以上に憧れの芸術の都であり続けたことがサインひとつにも表れています。

(専門学芸員 一柳 友子)

ミュージアムガイド vol.40

県立ミュージアムの館内環境管理

「博物館なら保存環境に問題はないでしょう」と思っただけでいれば大変うれしいですが、博物館であるというだけで資料保存に問題がないとは言えません。

資料に影響を与える要因には、地震、火災、虫・カビ、光、温湿度等があり、設備面を整えるとともに、常に職員が手をかけていく必要があります。今回は、その中から虫と光対策の一部をご紹介します。

虫対策

博物館にも虫はいます。ハエや蚊、ゴキブリ等、いわゆる衛生害虫の対策も必要ですが、博物館で特に注意が必要なのは、資料を食害する虫です。書籍等を食害するシバンムシ、染織品を食害するカツオブシムシ等。これらの虫が展示室、収蔵庫に入らないよう、トラップを設置して、定期的に確認をしています。



展示室に設置したトラップ

光対策

「博物館の展示室って暗いなあ」と思われることがあります。博物館では、展示資料を並べた後、照明の明るさを調整しています。光がなければモノを見ることはできませんが、光が当たることにより資料は劣化してしまいます。みなさんに見ていただきながらも資料をまもることができるよう、明るさを調整するとともに、光の当たる時間を抑えるために展示替えをしています。少し暗い中で見てくださっているみなさんも、資料保存の一翼を担っているのです。

(専門学芸員 高木 敬子)

収蔵品紹介

香川県指定有形文化財

舞楽面(尉・姫)

鎌倉時代 個人蔵(当館寄託)

舞楽の二ノ舞に用いられる咲面(左)と腫面(右)の二面です。もと青海神社(坂出市青海町)に所蔵されていたものです。同神社は崇徳上皇を茶毘に付した際の煙がたなびいた地に宮を立てたことに始まると伝え、煙の宮とも称しました。

二ノ舞とは案摩とセットで舞われる喜劇的な演目で、咲面をつけた老翁と、腫面をつけた老婆が案摩のしぐさをまねるものうまく舞えない様子を滑稽な身振りで表現します。

咲面は大きく口を開けて哄笑する表情を、腫面は舌を出し、醜く腫れ上がってゆがんだ風貌をみせます。鎌倉時代後期の作とみられ、本県の古面では最も古い時代に属する優作です。

ところで興味深いのは、青海神社の近隣にある中世の神谷神社や白峯寺でも舞楽が行われたとみられることです。実際、神谷神社には中世の舞楽面が伝来しています。では、中世の舞楽面が当地域にあるのはなぜで



しょうか? 注意されるのは当地域では古代から中世にかけて、行政庁としての国衙が活動していたことです。近年の研究によれば、中世の国衙には「楽所」のもとで音楽舞楽を専門とする集団が活動し、また国衙の工房には道具・楽器類の維持管理を担う職人集団も配置されていました。国内寺社の護国法会で行われた神楽や舞楽は、国衙の楽所や工房に支えられていたのです。本舞楽面は、国衙周辺ゆえに伝来した可能性があり、讃岐国衙の研究にも手がかりを与えるものといえるでしょう。

(専門学芸員 上野 進)

参考文献:井原今朝男「中世の国衙寺社体制と民衆統合儀礼」
(「中世一宮制の歴史的展開」下)岩田書院、2004年)

藤沢章《窓・カマリア》1993年

高松出身の藤沢章(1923~1998)は、砂漠の画家とも呼ばれ、中東・アラブ世界を題材に作品を描きました。1991年のイエメン訪問をもとに描いた作品の一つが《窓・カマリア》です。



藤沢章《窓・カマリア》1993年 油彩、カンヴァス 当館蔵



(部分)

《窓・カマリア》はイエメンの古い建物でみられるカマリア窓というステンドグラスを画面いっぱいに描いています。カマリア窓は、藤沢が現地でも撮った写真にも写っています。光の入り方によるガラスの色の変化を厚塗り(はうすり)で表現しており、壁にかけるとそこにカマリア窓があるように思えます。

さて、砂漠の風景やそこで生活する人々を描く藤沢の作品の中で、ステンドグラスを一面に描く《窓・カマリア》は異色といえます。しかし、作品をじっくり見ると、ガラスには向かいに見える建物が描かれています。ステンドグラス越しに、藤沢の追いかけた砂漠世界の生活が存在しているのです。この作品もまたイエメンに生きる人々の日常を描いたと言えます。

(主任学芸員 鹿間 里奈)

れきみんだより

播州針の生産地を訪ねて—兵庫県小野市池田町の釣針製造所「はりよし」—



①工場全景



②カンナ



③イケつけ(イケ起し機)



④釣針を揃える

兵庫県の加東市や小野市など北播磨の地域では釣針生産が盛んで、嘉永年間(1848~1854)に下久米村(現加東市社町)の小寺彦兵衛が土佐針から学び当地の釣針を創始したという説が有力で、「播州針」の名で全国に知られています。「播州針」は瀬戸内地方を含め全国で使用され、一部は当館にも收藏されていますが、製造工程に関する詳細な調査は行えていませんでした。令和2年3月に兵庫県釣針協同組合の紹介で、小野市池田町の釣針製造所「はりよし」で、岸本敬太社長のご好意により、釣針の機械化が進む中、現在は少なくなった手工業的な部分を残す工程の調査を行いました。

ここでは釣針整形の名人と言われる森本行俊氏(昭和10年生まれ)の作業を紹介します。

②は棒状の釣針の素材(えく)を捋るカンナで、魚の口に食い込む釣針の先端部のイケを作ります。機械



⑤型曲げ(型曲げ機)



⑥イケと曲げのに入った針

の場合は、素材1本ごとに釣針の先端にイケを入れるイケつけを行います。一方、手作業を残した製造の場合では、素材120本を揃えて、写真③のようにイケ起し機に装着されたカンナの下に入れます。そして、ハンドルを回して上部のカンナを動かし、揃えた素材の上に「イケ」を一斉に入れます。写真④は「イケ」を入れた釣針です。この作業で難しい所は、素材120本を0.1mm以下の精度で一斉に揃えて作業するところです。少しでもずれると不整形な釣針となります。カンナの刃は微妙な角度が必要です。また、刃こぼれしないよう砥石で研ぐため、品質の良い砥石と研ぐのに適した固さのカンナが必要で、いずれも現在は入手困難で昔購入したものを大切に使っています。つぎに⑤の型曲げの作業で、ローラに、揃えた120本の棒状の素材を入れて、屈曲をつけます。その際、やや斜めに入れることで、釣針の軸にひねりが入ります。

今回は岸本社長の説明もあり、釣針製造の全容を短時間の調査ながら知ることができました。今後、これらの情報を当館の展示に活かしたいと考えます。

(専門職員 真鍋 篤行)

臨時休館・休室のお知らせ

瀬戸内海歴史民俗資料館では展示室改修工事等のため、下記日程で臨時休館・休室をします。

・臨時休館

令和2年9月28日(月)~
令和2年10月23日(金)

・臨時休室(第1展示室~第4展示室)

令和2年9月14日(月)~
令和3年3月19日(金)

なお、工事等の進捗状況により変更になる場合がありますので、詳しくは資料館にお問い合わせいただくか、館ホームページでご確認ください。

①れきみん講座

「香川の観光と瀬戸内海」

江戸時代後半から現代までの香川県の観光開発史を瀬戸内海視点でひもとくとともに、近代以降、地元の郷土史家や教員がそれらにどのように関わったかについて紹介します。

日 時:10月31日(土)
午前の部 10:00~11:00
午後の部 13:30~14:30

場 所:瀬戸内海歴史民俗資料館 研修室
講 師:田井 静明(瀬戸内海歴史民俗資料館 館長)
定 員:午前・午後ともに12名(先着順)
申込期間:9月30日(水)~、定員になり次第終了

れきみん講座の申込方法

新型コロナウイルス対策による少人数制実施のため、受付は電話のみとします。申し込みの際に、氏名、電話番号、講座名(午前・午後)をお伝えください。 ●申込先:瀬戸内海歴史民俗資料館 TEL087-881-4707

②れきみん講座

「衆鱗手鑑が標準和名に及ぼした影響について」

衆鱗手鑑・衆鱗図が転写図を通じて近代魚類学に影響を与えていないかを検討しました。その結果数例の標準和名に衆鱗手鑑由来の和名が遺っていることが推測されました。このような魚名研究の一例を紹介いたします。

日 時:11月21日(土)
午前の部 10:00~11:00
午後の部 13:30~14:30

場 所:瀬戸内海歴史民俗資料館 研修室
講 師:川西 敦(瀬戸内海歴史民俗資料館 主任)
定 員:午前・午後ともに12名(先着順)
申込期間:10月28日(水)~、定員になり次第終了

香川県立ミュージアム

カフェポット ミュゼ

くつろぎのひとときに、カフェ ポット ミュゼをご利用ください。

営業時間:9:00~17:00(オーダーストップ 16:30)

夜間開館の日は9:00~19:30(オーダーストップ 19:00)



ミュージアムショップ

1階ミュージアムショップでは、当館オリジナルグッズも販売しています。

営業時間:9:00~17:00

夜間開館の日は9:00~19:30



香川県立ミュージアム

〒760-0030 高松市玉藻町5番5号
TEL.087-822-0002(代表) FAX.087-822-0043
https://www.pref.kagawa.lg.jp/museum/



【分館】瀬戸内海歴史民俗資料館

〒761-8001 高松市亀水町1412-2
TEL.087-881-4707 FAX.087-881-4784
https://www.pref.kagawa.lg.jp/setorekish/



【分館】香川県文化会館

〒760-0017 高松市番町1丁目10-39
TEL.087-831-1806 FAX.087-831-1807

